

みどりの風

(URL) <http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/> (E-mail) k-iskwj@educet.plala.or.jp

子どもの命を守ること

ふれています。

このたよりを作成している今、雪はほとんどありません。学校は、子どもたちの元気な声がこだまし、明るい笑顔であ

4月からここまで、子どもの命を守ることを最優先課題にして、学校でも様々なことに取り組んできました。

さて、子どもの事故やけがはどこで起こることが多いでしょうか。「学校で」というご意見が多いでしょうか。確かに、子ども同士でかかわったり身体を動かしたり体育で活動したりすることが多いので、けがなどは学校で起こることが多いのかもしれませんが。

子どもたちは、平日朝7:30~夕方16:30(登下校も含む)の約9時間は学校に居ます。年間で202日が登校日だとして、202日×9時間で1818時間を学校で過ごしています。1年は365日で24時間ですから、8760時間です。そうすると学校で過ごす割合は、 $1818 \div 8760 \times 100$ で約21%となります。つまり、一年間の時間で、約4/5(8割)は、家庭や地域で過ごしている計算になります。

この数値を見て、皆さんはどんな感想を持たれましたか。この数値を見ると、子どもの命(事故やけがを含む)を守ることは、あらゆる場面で行う必要があることが分かります。学校でも、家庭でも、地域でもです。

まず学校では、具体的な場面を想定して、そこにある危険性を考えさせたり正しい行動を教えたりしています。ヘルメットの着用を含めた自転車の安全な乗り方、歩く際道路では一旦止まって左右の確認を自分の目でしてから手を挙げて渡ることも随時指導してきました。手をポケットに入れて歩くことや雪山に登ることの危険についても同様です。他にも、春の自転車安全教室、年3回の避難訓練。町内子ども会では危険箇所の確認もしてきました。

次に、地域・家庭ではどうでしょう。私は、2つお願いしたいことがあります。1つめは、実際の危険な場所での具体的な話(指導)です。「ここの側溝、見てごらん。水が～。危険は何だと思う?」「人がたくさんいるところで走るとね、～なるかもだよ」「歩道を歩いていて、ふらふらしている車があったら、どうする?」といった具合です。危険察知能力や危機回避能力を育てることもつながります。

もう1つは、皆さんからの具体的な声掛け・指導です。家庭や地域で見られた危険な行動(特に、火・水・車や遊び)に対して、「〇〇さん、止まって」「そこ子どもたち。～していると危ないよ」「～をやめなさい」などです。躊躇や遠慮は不要です(あった場合は、そうした指導後に、学校までお知らせください)。大人が模範となる行動を取ることも重要です。

素晴らしい可能性を秘めた石川小学校の子どもたち。子どもの命を光らせ続けるために、地域・家庭・学校の大人が同じ方向(ベクトル)を向き、いつでもどこでも確実に丁寧な指導を続けていくことが一番大事だと思います。今後ともよろしく願いいたします

【6年生の保護者の皆様へ】

目の前のお子さんは、早く進学したい(進学:期待・楽しみ)気持ちと、まだこの学級の仲間といたい(進学:不安・心配)気持ち、どちらが大きいでしょうか。今は半々くらいでしょうか。残りの日々、生き抜く力(学ぶ力、かかわる力、あいさつすること、相手を思いやること、身体を動かす喜びなど)を、その子の目標・課題に応じて、卒業まで育ててまいります。

